

29年度 事業計画

【法人としての事業方針】

「次代を担う子どもたちとの“つながり”をつくる情報発信と事業展開　－メンバー間の横のつながりをモチベーションにした体制づくり－」

1. 中間支援事業の推進力の強化

私たちの目的を達成するためには、「地域活動の活発化」が必要不可欠であり、引き続き、中間支援事業を柱に据えて取り組んでいきます。

本年度は、みなと交流館等指定管理業務の第2期2年目となり、前年度から築いた体制を強化し、同館中間支援業務に力強いリソースを提供していきます。

なお、中間支援事業は、私たちが大切にしている「住民参加」促進の面で密接に関わっており、今年度は特に、子どもに対するアプローチ（手段）を持ちながら、他事業や

行政等と連携し、成果の最大化を目指していきます。

2. BOCOタワーをきっかけにした子ども向けプログラムの考案・試行

88プロジェクトとして、「BOCOタワー世界選手権」の開催をはじめ、「BOCOタワー体験」を通じて、子どもたちに向けて、八幡浜のことを知ってもらうこと、愛着を持ってもらうことを目指していきます。また、将来に亘ってYGPの柱となる事業に育てるため、外部視察等を含めた研修（研究）を重ね、次年度以降にBOCO積み木の具体化が図れるよう動いていきます。

3. 子どもの参加促進と情報発信力の強化

オチャップを中心に、子どもたちの参加をきっかけに親世代を巻き込み、地域に目を向けてもらう活動を行います。YGPを含め地域活動への参加きっかけを多く提供していくことで、子どもたちから「元気」を創出できるよう取り組んでいきます。

また、「参加する」だけでなく、住民自らが地域情報の「発信者」となれるよう、「KITONARU」(きとなる)でライターとして活躍できるよう後押しを行っていきます。

さらに、内外へのつながりを戦略的に利用し、YGP事業等の発信に努めることをもって、活動参加者やメンバー（寄付者含む）の増強を図っていきます。

4. 会員の横のつながりを作り、モチベーションアップを図る

YGP成長のエンジンは、会員たる「人」であることを前提に、次の10年を見据え、担い手になる人財の育成を図っていきます。そのため、「取り組んでいること実感」や「会員間の横のつながり」がより強いものになるよう全体会や活動、親睦会等を通じ、理事者等が積極的に関わっていきます。

【各事業等の計画】

1. つながり事業

(1) まちづくり意見交換会（オチャップ）

今年度はみなと交流館と共催し、2回の開催を予定しています。今までの参加者や地域の方からの意見・要望をもとに、「開催場所」「テーマ」「周知の方法」を検討します。また、今年度は主に子どもに焦点をあて、親世代も巻き込みながら子どもたちが地域に目を向けられるオチャップにしたいと思います。

(2) 交流会

年末恒例行事となりました「YGPなかよし運動会」を今年度も開催します。「チームし

ろまち」をはじめとした地域の他団体の協力のもと、個人・団体に呼びかけて参加者を募り、つながりや絆を深める機会にしたいと思います。

2. まち育て事業

<プロジェクト>

(1) 88プロジェクト

毎年5月5日に「BOCOタワー世界選手権」を開催し、練り物産業の振興を図ります。それ以外の日にも「BOCOタワー体験」を通じて、今年は特に子どもたちに向けて、八幡浜のことを知ってもらうこと、愛着を持ってもらうことを目指します。また、将来に渡ってYGPの柱となる事業に育てるため、外部視察等を含めた研修（研究）を重ねて子ども主体のプロジェクトになるよう検討を進めていきます。

また引き続き、八幡浜市のサブゆるキャラ「かまワンちゃん」を活用し、ラインスタンプの普及を図り、「かまワンちゃん」グッズの製作・販売、「かまワンちゃん」目線の八幡浜情報発信を行います。

<中間支援事業>

(1) みなと交流館等指定管理業務における中間支援業務へのリソース提供

引き続き、みなと交流館中間支援業務に力強いリソースを提供していきます。同館内の他業務やYGP内の事業と連携しながら、全員で中間支援を行い、成果を上げていける体制づくりに取り組みたいと思います。また、地域活動団体ポータルサイト「TUMUGU」（つむぐ）をみなと交流館とともに運営（更新等）していくことを通じ、地域活動に有益な情報を随時発信していきます。

(2) 中間支援パッケージの強化・売り込み

「活動紹介書」を活用し、メンバー全員でYGPに対する理解・共感を獲得していくとともに、当団体が提供できる講座やツールなどを売り込んでいきます。

(3) 愛媛に来たくなるWEBメディア「KITONARU」（きとなる）の運営

前年度立ち上げた“気になる”愛媛・八幡浜のグルメ・観光情報を集めたWEBサイト「KITONARU」（きとなる）を引き続き運営していきます。記事をコンスタントに投稿するとともに、SEO対策はじめ周知活動にも力を入れ、月間PVの増加を図っていきます。また、広告（広告記事）による売上を確保し、ライターへの分配を行うとともに、編集部としての独立も視野に入れた運営を行っていきます。

3. 事務局

(1) 基本計画書・5カ年計画の策定

昨年度から実施しているYGPの方向性を議論する「ドリームミーティング」を継続し、「基本計画書」、「5カ年計画書」の策定を行います。特に、YGPの考える八幡浜の「課題」と「理想」を出し合い、私たちの担う役割と「成果目標」（何を指標として目指すか）を定めていきたいと考えています。

(2) 情報共有

① 理事者間での情報共有

原則毎月1回、理事会を開催します。全体会との区別をつけたうえで、理事者の議事持ち寄り形式で行い、限られた時間の中で効率的な会運営を行います。また、必要に応じてメンバーにもオブザーバー参加を求め、法人の運営に関与してもらうように働きかけます。

なお、日常の情報共有・決定については、現在導入しているグループウェア「k i n t o n e」（キントーン）を効率よく活用していくために、理事者間での取り決めに明確化します。

② 正会員との情報共有

情報共有・チーム作り・レベルアップなどを目的に、全体会を月1回（原則：最終木曜日）に開催します。また、全体会が事務連絡だけの場とならないように、1回5分程度のスピーチタイムを設けることでメンバー間の交流のきっかけ作り及び一人一人がレベルアップする機会を作ります。

なお、日常の情報共有・決定については、引き続き「k i n t o n e」（キントーン）をベースツールとして活用します。さらに理解度が深まるようメンバーに対する説明会を随時行っていきます。

(3) 正会員の拡充とアプローチ

サポーターや活動参加者の中で、運営にも関わってもらえるメンバーを増やしていきます（目標純増3名）。

そのため、「正会員を募集している」という情報をアナウンスするとともに、正会員希望者の「強み」が活かされるような役割を振っていくことを心掛けていきます。

また、参加率を上げるため、直接話す機会を理事者や責任者が中心となってカウンセリングやフォローアップを行っていきます。

(4) サポーター（支援者含む）の拡充とアプローチ

今年度は若年層を含めサポーター獲得につなげるため、イベント終了直後に、直接コミュニケーションを取る時間を設けるようにしたいと思います（目標純増10名）。

そのため、名刺交換による過去の情報やイベント参加者に対する連絡先の情報収集を行い、活動を紹介したメールマガジンの配信を続けていきます。なお、今まで活動に参加した人、及びアンケートにて活動に興味がある人に対して再度メールにて呼びかけるなどの別フォローを行います。

(5) PR活動（広報）

ホームページ、ブログ、フェイスブック、ツイッターを基本ツールとして、活動の予告・結果などの情報を発信していきます。YGPのファンに、まずなっただけよう、魅力的な情報発信に心掛けるとともに、頻度を上げて随時更新をしていきます。

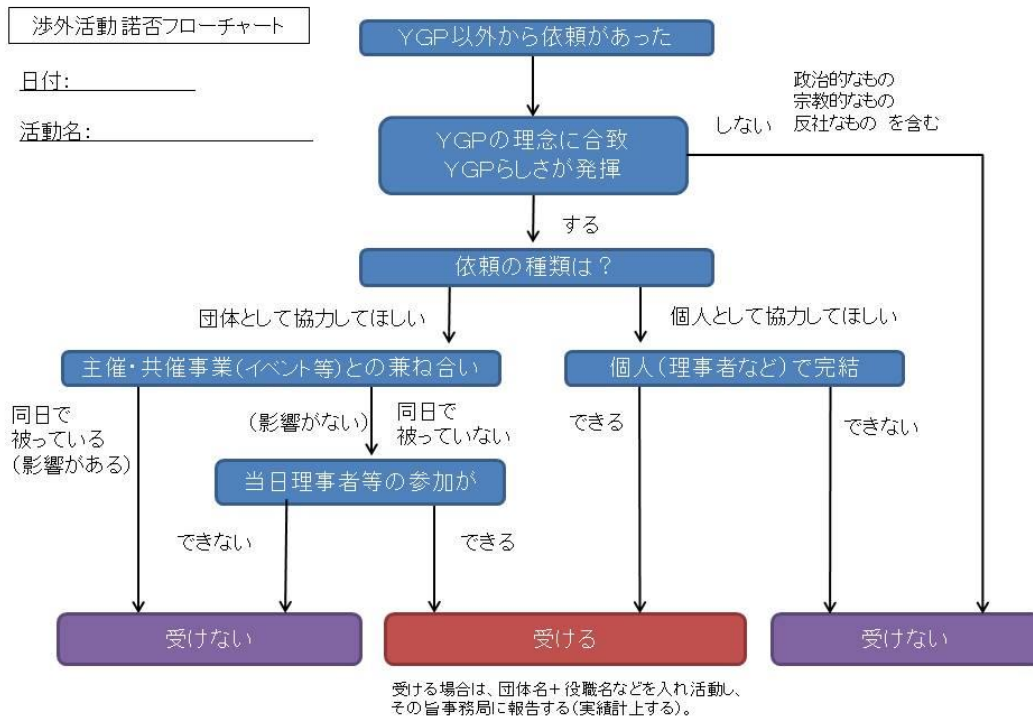
なお、今年度は、YGPの活動を分かりやすく伝えること、メンバー募集をしやすい仕組みをつくるため、ホームページをリニューアルします。また、理事者を中心として、「次のイベントにつなげる」という意識を共有するとともにイベント等の際に関わってくれた方をそれっきりにしないため、「活動紹介リーフレット」や「活動紹介冊子」を積極的に活用しながら、各々でPRができるようにしていきます。

(6) 渉外活動

原則、YGPの独自事業を優先するとともに、受ける際は、組織内ルールに基づいて、諾否・対応者等を決定していきます。

なお、講演・委員派遣については、①YGPの人財をグローバルに活用する（人財育成・活用）、②考え方や取組を広く周知する（広報）、③委員輩出により、地域や他団体に貢献する（地域貢献＋つながりづくり）の側面があることから、積極的に行っていきます。

<フローチャート図>



※ 委員の委嘱依頼、みなと交流館の「中間支援」以外の業務に係る依頼についても、本表に基づき諾否を決定する。
※ 本表は、原則であり、相手先との関係性もあることから、理事にて随時協議を行い、例外を認める。

20150714

(7) 会計

前期は新たな試みとして、“ボランティアの人件費換算”を行いました。

ボランティアは無償で行うものなので、鈍感になりがちですが、もし同じ時間だけコンビニでアルバイトをしたら、どうでしょうか？当然ながらアルバイト収入を手にすることができます。つまり、アルバイト収入を犠牲にして、ボランティア活動を行っていると考えれば、お金ではなく、目には見えない労働力を寄付したと言えます。そこで、目に見えないボランティアの人件費を時間数×愛媛県の最低賃金717円(H28.10.1公表)にて算出し、活動計算書に計上させていただきました。

今期は決算を締める段階ではなく、期中の時点で予算管理を行っていきたいと考えています。

(8) 事後管理(記録・評価)

イベントや活動後、その都度反省や評価、ノウハウを記録し、報告業務の効率化を図ります。なお、記録漏れがないように理事会で随時チェックをしていきます。

評価については、自己評価として、エクセレントNPO評価基準を引き続き導入します。また、外部評価として、「活動参加シート」と合わせたアンケート調査を随時行っていきます。

様式例（法第28条第1項「前事業年度の活動計算書」）

平成29年度 活動予算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人八幡浜元気プロジェクト

科 目	金 額 (単位: 円)	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	54,000	54,000
2 受取寄附金		
受取寄附金	20,000	
受取諸謝金	50,000	70,000
3 受取助成金等		
受取助成金	1,550,000	1,550,000
4 事業収益		
つながり事業収入	45,000	
まち育て事業収入	120,000	165,000
5 その他の収益		
活動支援金収入	30,000	
雑収入	30,000	60,000
経常収益計		1,899,000
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
人件費計	0	
(2) その他経費		
つながり事業	40,000	
まち育て事業（88プロジェクト）	50,000	
まち育て事業（中間支援事業）	1,420,000	
支払手数料	1,000	
通信運搬費	1,000	
会議費	3,000	
支払保険料	10,000	
消耗品費	5,000	
雑費	2,000	
その他経費計	1,532,000	
事業費計		1,532,000
2 管理費		
(1) 人件費		
人件費計	0	
(2) その他経費		
支払手数料	350	
HP管理費	21,600	
HP更新費	250,000	
ボーイスカウト賛助会員費	1,000	
通信運搬費	1,000	
消耗品費	5,000	
繰延資産償却	15,374	
その他経費計	294,324	
管理費計		294,324
経常費用計		1,826,324
当期経常増減額		72,676
当期正味財産増減額		72,676
前期繰越正味財産額		88,443
次期繰越正味財産額		161,119

※ 今年度はその他の事業を実施しません。

(備考)

- 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。
- 「事業費」とは、法人の事業の実施のために直接要する支出で、管理費以外のものをいい、会計処理上は、事業の種類ごとに区分して記載する。事業費の例としては、「〇〇事業費」（注…当該事業の実施のために直接要する人件費・交通費等の費用が含まれる。）等が挙げられる。
- 支出規模（事業費+管理費）でみた特定非営利活動に係る事業の割合、総支出額に占める管理費の割合等は、特定非営利活動を行うことを主たる目的とすること、営利を目的としないものであることという法定要件への適合性の判断材料となる。



人の元気を、まちの元気につなげる